

辰

2012

年頭のご挨拶

佐呂間町長 川根 章夫

新年明けましておめでとうございます。
皆さまには、輝かしく希望に満ちた新春を
ご家族おそろいで、健やかに迎えのこと
とお慶び申し上げます。



昨年中は3年目の町政全般にわたりまして、格別のご理解と温かいご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて昨年を振り返りますと何と言つても、3月11日の東日本大震災による、津波災害と原発施設の爆発事故、秋には国を二分し日本中で反対運動が起こっていた、TPP（環太平洋連携協定）への参加協議を表明した、この激動する事件が、他の出来事を打ち消す結果となりました。

今でも私たちの目に鮮明に浮かびます東日本大震災で、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、早くもとの生活ができることを願っています。

経済に目を向けてみますと、ギリシャに端を発した、ヨーロッパ

信用不安と円高・ドル安の影響を受け、日本の景気動向は一向に回復の兆しは見えず、これに対して政府及び日本銀行が有効な手立てを打つことができないことが、失業者や生活保護費などの増加と、社会に暗い影を落としています。
明るいニュースとしては、サッカーのなでしこジャパンが、女子世界選手権で優勝を果し、日本に大きな感動と希望を与えてくれました。

わが町を振り返りますと農業においては、春先の天候不順や夏場の高温による影響で、畑作の主要作物である麦類・ビートの収穫量が減少となり、畜産においても生乳生産の伸び悩みや、個体販売価格の低下などの影響で当初農協全体の生産額を下回ったことは、残念な結果となったところです。昨年整備しました、麦乾燥施設やTMRセンターの稼働により、生産性向上に期待するところです。

漁業においては、外海ホタテ・養殖ホタテ漁業とも、予定していた数量・生産額となり、東日本大震災の影響で、心配されています。養殖カキ漁業も、三組合とも十分な連数を確保し計画どおりの生

産となり、全体の生産額は、当初計画を上回る結果となり安堵しています。

土木・建設関係につきましては、国の経済活性化対策による補正予算により、順調に事業が施行されてきましたが、今後は震災対策関連予算にウエイトが置かれ、一般公共事業がどれだけ確保されるかが、大変懸念されるのであります。

本当に嬉しいニュースとしては、佐呂間中学校女子ソフトボール部が、全国大会に出場するという快挙を成し遂げ、少ない部員ながらも練習を積み重ねた結果であり、町民みんなが心から応援を行い、健闘を称えたところです。永年、本町の公的医療機関として、運営してきました佐呂間厚生

病院が、4月1日から入院施設のないクリニックに代わり、町民の皆さまには大変な不安と不便を与えたことは、心からお詫び申し上げます。少子高齢化が進む中にある、医師及び医療施設の確保は、町民が安心して佐呂間町に住み続けたいと願う第一歩でありますので、最重要課題として認識しているところです。

さて、新しく迎えました平成24年ですが、地方自治体をとりにまく環境は、年々厳しさを増しております。国と地方の借金が1千兆円ともいわれています現在、各自治体は町民のニーズに対応し、最小の財源で最大の事業効果が求められており、本町においても予算規模に適した財政運営を

行い、財政健全化を図らなければなりません。

佐呂間町が生き残るためには、住んでいる私たちが努力していかねければなりません。本町の基幹産業であります農業・漁業の環境整備を推進していくとともに、当面本町に大きな影響を及ぼすTPP交渉断固阻止の取組みを、推進していかねければなりません。「これからもずっと住み続けたいと思う町づくり」に、最大限の努力を私共町職員一丸となって、頑張ることをお誓い申し上げる所存であります。

また、私の一期目の最後の年でもありますので、これまで以上に全力を注ぎ、町政運営を行うことをお約束します。

謹賀新年

佐呂間町

町長 川根章夫
副町長 山本英人

他職員一同

町議会

議長 吉野正剛
副議長 加賀屋修

他議員・職員一同

教育委員会

委員長 中道寛雄
教育長 香川健一

他委員・職員一同

農業委員会

会長 佐野敏治
他委員・職員一同

選挙管理委員会

委員長 内藤学峰
他委員一同

監査委員会

委員 今井經二
委員 安田一彦

遠軽地区広域組合佐呂間町消防団

団長 五十嵐正一
他団員・職員一同

新しい年が皆さまにとりまして、最良の年となりますとともに、合わせてご健勝でご発展を心からご祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

辰

2012

町民の皆さまにおかれましては、ご健勝にて輝かしい平成24年の新春を迎えられ心からお慶び申し上げます。

年頭のご挨拶



議長 佐呂間 野正 剛
副議長 吉野 正 剛

タイ国での洪水、欧州を中心としたユーロ市場の財政危機、戦後最高値を更新した円高など、回復基調にある経済への影響が懸念されているところであります。

このような中で、政府が交渉参加に向けて関係国と協議に入ることを表明した「環太平洋経済連携協定」いわゆるTPPについては、国民的議論が十分に行われたとは言い難い状況にあります。

本町においても、基幹産業である農業・漁業への影響が懸念されることから、その動向を注視していかなければなりませんし、今後、更なる政府による情報の開示と、十分な国民的議論が必要であると考えています。

さて本町の一年を振り返ってみますと、台風などの大きな災害を受けことがなく順調に推移しましたが、春先の多雨、夏場の高温の影響を受け一部の農作物で収量、品質が低下し販売額も減少が予想されています。また、酪農畜産でも福島原発事故後の風評被害などが影響し計画を下回る見込となりました。

水産業は養殖ホタテで斃死するなどありましたが、外海ホタテ、

秋サケの価格に恵まれ計画を概ね達成できました。

商工林業は、景気足踏み間の影響から地域経済、雇用環境は依然として厳しい状況を受けながらも、順調に推移しました。

町においても「地方分権」、「地域主権」への流れの中、より自立した町づくりが求められています。これは、住民に身近な行政は地方公共団体が自主的、総合的に担うようにするとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組んでいく大きな変革を迎えています。

地域主権の確立に向け、議会としても開かれた議会を目指し、議会活性化の一環として昨年は議会報告会を開催し、町民と対話する機会を設けることができました。今年も多様な民意を議会に反映させるため報告会を開催したいと考えています。

議会運営にあたっては、議員全員が議会議論を通じて、町理事者、町民が一体となり、知恵と力を出し合い、安全で住み良いまちづくりに邁進してまいります。

終わりに、本年も全町民のご健勝とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とします。

平成23年の昨年は、私どもの想像を遥かに超えた未曾有の東日本大震災が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます、不自由な避難生活を送っている方々が一日も早くもとの生活にもどれるよう早い復旧・復興を望むものであります。

また、福島第一原子力発電所の事故は収束の目処が立たず、あらためて原子力発電の安全性が大きく問われています。

さらには、日本企業が集中する